



# 日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り  
第 77 号  
2021年10月20日  
編集兼発行人  
谷口 正俊

HITACHI HITACHI



## 彼岸の頃

撮影者：伊藤 泰生  
撮影日：2020年10月3日  
撮影場所：日立市小木津町  
撮影余話：小木津駅北の常磐線下にヒガンバナが群生している場所がある。当日は早朝から常陸太田の源氏川堤防に群生するヒガンバナを鑑賞後、当所にやって来た。列車時刻表を片手に三脚を構えて何度も撮影した。  
秋の彼岸に咲くため彼岸花と言われ、地面から突然に花茎を伸ばし、真っ赤に反り返った花が咲く。2020年は例年より開花が遅く、稲架(はさ)掛けの風景とともに10月になっての見頃となった。

## リレー随筆(77) 河原子無縁塚由来 須江 二郎



日立市河原子町の桜川から梶澤川(湯楽の里南側道路)までの海側崖上一帯を明治時代の字名(あざめい)では四ツ塚と云われていました。水木町内にも六ヶ塚の字名があります。これはそれぞれに6~7世紀古墳時代の塚があって字名として残ったものと思います。  
河原子の四ツ塚一帯は朝日町社宅跡地を湯楽の里建設の際に遺跡調査が行われました。平成16年12月日立市教育委員会発行の河原子古墳群発掘調査報告書にまとめられています。ご参考までに水木町内の六ヶ塚の調査は昭和51年に甕の原古墳群の発掘調査を教育委員会が行いました。これらの調査報告書は市郷土博物館に保管され閲覧できます。  
“四ツ塚無縁塚”は昭和13年多賀工場が朝日町社宅を建設する際に数か所から遺骨武具などを発掘し、これを6月13日一か所に合祀しました。その後、高度成長期の昭和39年4月女子専用の真弓寮を建設するのに伴い同塚を朝日町アパート海側に改葬しました。同社宅自治会では毎年6月13日に慰霊祭を恒例として、河原子真言宗の名刹で多賀工場との関係が深い東福寺住職にご供養をお願いしてきました。当時は子供たちが大勢いて賑やかで、自治会ではゲームをしたり、お菓子を配ったりしてお祭りの雰囲気でした。その後、湯楽の里やヨークベニマル河原子店



無縁塚(要害クラブ内)

等の進出によって平成29年6月に同塚は、多賀工場の接待所で城址の要害クラブ入口左側の敷地内に再び改葬されていますが、恒例の供養は日立GLS(多賀工場の新社名)が続いています。写真の梵字は東福寺住職によると、阿字(あじ)でサンスクリットの最初の文字で真言宗大日如来を表す種字ということです。

日立市史によると、四ツ塚無名戦士について次のような記載があります。永禄5年(1562年)に太田城主佐竹義昭と磐城相馬盛胤との間に合戦あり。義昭の臣孫澤権太夫(要害城主)は孫澤川(現桜川)の溪谷を盾に寡兵よく防戦したが相馬兵強大で進撃急にして、この付近は激戦の中心となる。義昭は城兵を繰り出し、撃退して敗走の兵を北方に追う。戦死者多数の激戦だった。これは孫澤合戦といわれ、討ち死にした武将の碑が多賀町5丁目9付近の旧道(陸前浜街道)にあります。この碑には次の詩があったと伝えられる“春くれば彼岸桜は咲にけり 身のあわれさは孫澤にあり”相馬氏が江戸への往復にこの地を通りお参りしたと伝えられています。そして孫澤合戦で敗れた兵士の墓がこの四ツ塚地域の何か所に葬られたものが多賀工場の福利施設建設の工事に伴い発掘されて合祀されたのです。



相馬碑(多賀町五丁目陸前浜街道筋)

私達の生活は周囲が開発されたりして年々便利になって来ていますが、これらの地域の成り立ちや歴史の上にあるという事を後世に伝えて行くことも大事ではないかと思えます。

# 遙かなる旅の記憶 - 22年前にタイムスリップ ～中国・長江三峡クルーズ紀行～

今野 泰宏



1999年の夏、旅は上海への一人旅で始まった。三月末に受けた中国語検定試験の合格通知を受けて中国語学習への意欲が高まり、試験会場で受取った案内書を頼りに「三峡クルーズの旅」を申し込んだ。中国語教師が同行し、観光と語学研修を兼ねた二週間の旅。

## 旅の概要

長江三峡クルーズは、重慶市から湖北省武漢市までの約1,370km、長江を下る三泊四日の船旅。長江三峡は、瞿塘峡(略図③)、巫峡(④)、西陵峡(⑧)の三つの渓谷の総称で、雄大な長江の流れに険しい峰々の断崖絶壁が連なり、三国志の舞台となった遺跡や寺廟が点在し、悠久の歴史を刻む名所旧跡が多い。当時、宜昌(ぎし)よう)市三斗坪に三峡ダム(⑨)を建設中で、その見学も旅の目玉の一つ。ダム建設により2003年から長江の水位上昇が始まる。大自然の景観を堪能した後、武漢から上海へ飛び、大会の発展状況を見学体験する。



1999年の夏、旅は上海への一人旅で始まった。三月末に受けた中国語検定試験の合格通知を受けて中国語学習への意欲が高まり、試験会場で受取った案内書を頼りに「三峡クルーズの旅」を申し込んだ。中国語教師が同行し、観光と語学研修を兼ねた二週間の旅。

## 旅の始まり、上海から重慶へ

旅の参加者は私と福岡からのKさんと名古屋から十名の計十二名。上海虹橋空港で名古屋便が遅延との伝言。翌朝、Kさんと二人で重慶へ。

重慶は河川交通の要衝であると同時に重工業都市。中心街は長江に嘉陵江が合流する三角形の地形に開けた起伏の多い坂の町で別名山城。重慶到着後、市街の最高部・鵝嶺公園に案内され、展望台から長江と嘉陵江の流れと市中心街を一望した。名古屋組は夜遅くに到着。

## 重慶、初めてのバス利用

三日目、午前中は中国語授業、長江流域の文化と歴史の話。午後は自由行動、初日であり全員一緒にバス乗車を体験。行先は解放碑広場。バス乗車の案内板は、バス番号毎に行先と途中停車バス停の名が列記されていて解りやすい。解放碑広場は高層ビルの多い繁華街、歩行者天国。各人自由に百貨店などを散策し、帰路は個別に慣れた気分ですバスに乗った。

四日目午後は名古屋組と別行動、Kさんと共に中山四路の曾家岩50号(周恩来公館)と桂园(毛沢東と蒋介石が協定を結んだ場所)中国革命歴史の足跡を訪ねた。中山四路は街路樹が美しい落着いた街並み。翌日も路線バスで重慶郊外の紅岩革命記念館(八路军重慶駐在所)を訪問した。紅岩村行きバスを探すのに苦労したり道に迷ったりしたが、バス利用と街の一人歩きに自信がついた。

## 長江三峡クルーズ

六日目朝、クルーズの出発は重慶朝天門埠頭から、沖合に停泊した遊覧船に浮橋を渡って乗船。遊覧船は一部屋二名、窮屈だが展望良し。

最初の下船は豊都。道教と仏教の寺廟、冥界入口のある鬼城に登り、天子殿の閻魔王像に合掌礼拝した。翌朝、瞿塘峡の起点、奉節(①)に停泊。高い丘陵上に高層ビル群が建設中で三峡ダム完成後に水没する街の移転先。河岸の斜面に135m、175mと表示の看板があり2003年、2009年に水没する標高を示す。小型船に乗換え白帝城(②)へ。白帝城は三国時代の英雄・劉備の終焉の地、別名詩城。唐代詩人が三峡を詠んだ詩碑が並んでいた。白帝城はダム完成後、半島から孤島となった。



奉節の町と遊覧船



李白「下江陵」周恩来筆

瞿塘峡、三峡の中で最も狭く雄々しく険しい峡谷。李白の詩「下江陵、早発白帝城」は瞿塘峡の情景という。巫峡、兩岸に巫山十二峰の奇峰が連なり、神女峰・神女(⑤)は神秘的。巫峡の主流・巴東(⑥)で連絡船に乗り換えて神農溪(⑦)へ。狭い溪谷を20km程小舟で下り、美しい断崖絶壁、青く澄んだ水の流れを楽しんだ。

西陵峡、浅瀬や曲がりが多く険しい急流が続く。峡谷の迫力、切立った断崖の様子は美しく見飽きない。三峡ダム、夜間の見学

翌日予定の三峡ダム見学が早まり小型バスでダム展望台に到着したのは夜8時過ぎ。強いライトに浮ぶ工事現場を見て、スケールの大きさを実感したが、明るい時に見たかった。翌朝、三峡遊覧の終点・宜昌(⑩)に停泊。長江は山岳地帯から平野に入り川幅は倍以上に広がった。

## 武漢から三国志の古戦場・赤壁へ

九日目正午、武漢港に到着。船職員演奏に見送られ船旅が終了した。翌日、武漢から160km南の赤壁へ、諸葛孔明の火攻めで有名な古戦場。呉の総司令官・周瑜の像が印象的。

## 上海、一人歩き

十一日目武漢から空路上海へ。宿は虹口区・魯迅公園正門の前、四泊。豫園・蘇州観光等の団体行動以外の自由行動は一人歩きに挑戦した。魯迅公園前から21番バスに乗り南京路を目指した。人民広場の百貨店で昼食後、南京東路を外灘まで歩いた。街は人波に溢れ、改築中建物が多い。黄浦江対岸に前の出張時には無かったテレビ塔や高層ビルが建ち並び別世界にきた印象。発展中の中国の活気を直接肌で感じた街歩きだった。

## おわりに

終活で書斎に貯まった書類等の整理をしている。古い写真を見ながら遙かなる旅の記憶をたどってみた。文化大革命中の中国、近代化後の中国も経験したが、その過渡期の長江三峡の旅は貴重な体験だった。目をつむれば、渦巻く長江の流れの音が聞こえるような気がする。

今野 泰宏氏 連絡先

〒316-0023 日立市東大沼町 3-26-31  
電話 0294-34-4191  
メール yasukono@come1.ocn.ne.jp

## 同好会行事に参加して



### 「歩こう会」

広瀬 英貴

定年前本社転勤7年、東長崎アパートを起点に毎週末の「東京散歩」で、見て歩く楽しさを覚えました。山手線一周 35km、29 駅、3日かけて完歩、都立公園6か所、隅田川や神田川の橋巡り、皇居・東御苑には何回も行きました。お陰様で地下鉄の乗り換えはうまくなりました。退職後も見て歩く楽しさを歩こう会で続けています。四季折々の風景を眺めながら足腰弱ってきた御同輩の皆様と、身近な茨城の名所旧跡をたどり歴史文化を見て歩こう会！赤い帽子をかぶった世話人の方々の先導と丁寧な説明で、毎回楽しませていただいている一人です。旅は道づれ世は情け、人生苦もあり楽もあり…。このところ水戸藩に関わる史跡の探索が続いていますが、神社仏閣には必ず見応えのある大樹(ご神木)があり、何百年も生きて来た姿を見上げて感動しています。人生100年時代、今後も広く見て歩きたく世話人の皆さんどうぞよろしくお願ひします。



### 「野鳥・自然観察」

五味 重則

梅雨が明けた7月19日、常陸太田市栗原の釣り場。朝靄に浮かぶ高い木のとっぺんにダイサギ、電柱にはトビが羽休め。緑色濃い雑木林に小鳥がさえずり、釣り人の両脇に鎮座して釣果のおこぼれを待つアオサギとゴイサギ。月例探鳥会は猛暑を避けて早朝7時から3時間、自然豊かな久慈川沿いの田園地帯を廻りました。必携のビデオカメラは敏捷な小鳥を追う実力が無いので止

まり木の野鳥を探す。鳥を逃がしたときはメンバーの鳥追いの風景に代わる。この日は砂利道のシオカラトンボと蟻のバトルを避けた出会い、灌木にせわしく飛び遊ぶ小さなセッカ、用水路で水浴していたタヌキもビデオに収められた。コロナ禍の塾居でマイカーを処分、メンバー車に乗って参加する野鳥自然観察会は草花や昆虫や鳥の名前も鳴き声も記憶から直ぐ薄れるが、いつも素のままになれる集まりは楽しい。



### 「卓球クラブ」

宮原 養治郎

定年退職して健康維持にと中学生のとき経験のあった卓球を始め、卓球クラブに入会して約15年になります。退職後に卓球を始めるならばとペンホルダーからシェークハンドに切り替えました。理由はバックハンドがやりやすく、攻撃ができればシニアでも試合できること、そして新しいことに挑戦してみたいと思ったからです。このため雑誌、動画を見て基本から始めました。卓球は週に1~2回実施しており毎回、手・足・首・腰・肩甲骨など普段使わない部位のストレッチ運動から始まり、基本練習とダブルス練習で走り回るため、階段の昇降でも息切れがなくなり体力維持、向上の効果を強く感じています。コロナ禍で4ヶ月活動休止後に再開したときは体力低下が大きく、日頃の運動継続がいかに大切かを痛感しました。また社友クラブの同好会活動報告を担当してから約7年になります。卓球大会参加のときは活動記録として成績と大会写真を、また日頃感じていることを掲載していますが、早くコロナ禍が収束し卓球大会での活躍報告ができることを願っています。

## 支部からの お知らせ

### 日立社友クラブ理事会・茨城支部役員会報告

#### \*第70期第3回 日立社友クラブ理事会報告

1. 開催が10月5日に延期された。次号で報告する。

#### \*2021年9月 茨城支部役員会報告

- 開催日：9月9日(木)オンライン会議にて実施。
- 新入会員2名の審議が行われ入会が承認された。9月9日現在で茨城支部会員数は961名となった(昨年同期比19名減)。
- 泉山拠点での活動を9月で終了する。令和2年2月より大みか事業所泉山ホールの1室を借用し泉山拠点として活動してきた。3月からのコロナ禍の中で、大みか事業所のご支援で支部便り編集活動などを支えて頂いた。
- 大みか拠点への復帰移転計画報告
  - 日立オリジンパーク建設工事が7月12日竣工し開場に向けた準備が行われている。
  - 日立社友クラブ茨城支部の活動拠点も泉山拠点から日立オリジンパーク大みかクラブ内に移転し、新大みか拠点として活動を再開する準備を行っている。
  - 活動拠点の引越は10月中に完了させて、11月初旬には支部活動を新大みか拠点で開始する。

### 茨城支部新入会員勧誘のお願い

会員の高齢化に伴い会員数が減少方向にあります。どうか皆様からOB会等で各同好会の活動をPRしていただき、親睦の和の拡大にご協力をお願いします。

### 「会員投稿」、「リレー随筆」執筆者募集

支部便りの「会員投稿」、「リレー随筆」の執筆者を募集しています。自薦、他薦は問いません。執筆者候補を中村浩三(kozo@nakamura.email.ne.jp)まで連絡をお願いします。

### 年会費納入お忘れの方へお願い

会費(同好会費含む)の納入をお忘れの方には、個別にその内容を別紙にてご通知していますので、ご確認の上、納入くださるようお願いいたします。

**訃報** 誠に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

横見	迪郎	令和03年7月5日	満89歳
佐藤	弼也	令和03年7月8日	満82歳
坪田	純一	令和03年7月28日	満84歳
熊田	和彦	令和03年9月18日	満74歳
三木	雅雄	令和03年9月22日	満85歳

## 同好会の行事ご案内 (11月～1月)

### 1. 第87回歩こう会【日立久慈の名所・旧跡を歩く】

大甕駅を出発し、史跡、寺院、神社、公園などを巡りながら、新設された**日立オリジンパーク**まで歩きます。

- ・開催日：11月12日(金) 雨天時11月19日(金)
- ・集合：大甕駅西口 午前10時
- ・コース：大甕駅西口発→釜坂八幡宮→琴平神社→久慈小学校→愛宕神社→千福寺→二十三夜尊堂→赤羽緑地(昼食)→大甕神社→泉川道標→**日立オリジンパーク**着解散  
(所々アップダウン有り 全長7.4km)
- ・持参品：弁当、雨具、飲物、マスクなど
- ・会費：200円(非会員500円)
- ・申込締切：11月5日(金)
- ・申込先：石橋 康正  
Tel/Fax：0294-37-0439 / 0294-37-3725  
E-mail：yasumasa\_ishibashi@ybb.ne.jp

### 2. 研修会

研修会は新型コロナ感染防止対策が困難なため、当面中止します。

世話人：奥村 清  
TEL：090-1252-7396  
FAX：0294-36-0308  
E-mail：kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp

コロナ禍により各グループは開催場所の確保に苦慮しております。  
このページに掲載された行事予定(開催日・場所・時間・参加費など)は変更されることがありますので、各グループから茨ネット等により連絡される情報をご確認下さい。

### 3. 定例行事予定一覧

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場 所	時 間	備 考
		11月	12月	1月			
野鳥・自然観察グループ	石川 皓 0294-53-7064 aishikajp@ybb.ne.jp	22(月)			小山ダム	9:00～12:00	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			20(月)		久慈川河口	9:00～12:00	
				17(月)	ひたち海浜公園	9:30～12:00	
囲碁の会	日立地区 真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	11(木) 19(金)	9(木) 大会 17(金)	14(金) 25(火)	別途指定	10:00～(大会 9:30～)	参加費：¥100/回 大会：¥1000
	勝田地区 七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	26(金)	24(金)	28(金)			
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-namiki@themis.ocn.ne.jp	22(月) 29(月)	20(月) 27(月)	17(月) 24(月)	らぼーる ひたち	9:45～	参加費：¥1700/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@herb.ocn.ne.jp	10, 17 24(水)	1, 8, 15(水)	5, 12, 19(水)	会瀬体育館	9:00～12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	1(月)	6(月)	18(火)	別途指定	10:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	5(金)	3(金)	7(金)	別途指定	9:00～12:00	参加費：¥300/回 昼食別途
PCグループ	基礎講座 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	9(火)	7(火)	11(火)	別途指定	9:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
	勝田地区 佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	30(火)	14(火)	25(火)	ひたちなか市 ワークプラザ	13:15～16:00	参加費：¥500/回
	HTML講座(Ⅲ) 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	25(木)	23(木)	27(木)	別途指定	9:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む

注) 旅行会(連絡先; 溝口忠憲)は、開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

### 第17回デジカメ写真展のご案内

今秋もデジカメクラブ、写真五七五グループ、野鳥・自然観察グループ合同の写真展を開催します。新型コロナ感染防止対策を十分に施して、皆さまのご来場をお待ちしています。

- ・日時：11月30日(火)～12月4日(土) 9:00～17:00  
(最終日は15:00まで)
- ・場所：多賀市民プラザ 1階ギャラリー  
状況によっては中止もあることをお断りします。

**編集後記** 今野さんの長江三峡クルーズを中心とした雄大な中国紀行、ここ20年間で中国は政治、経済、文化の面で大きく変わりましたね。中国語をしっかりと勉強されての旅、一層印象深く心に残ったことでしょう。須江さんの無縁塚由来、ほとんどの人は初めて聞く話だと思いましたが、興味深く拝読しました。城址の要害クラブの存在も改めて認識しました。賢者は歴史に学ぶといいますが、それを教訓に何を考え、どう行動するかが大切ですね。

谷口 正俊